

生駒市郷土資料館新設準備検討懇話会第7回会議録 (要点筆記)

- 1 開催日時 平成23年4月27日(水) 午後3時～午後5時
 - 2 開催場所 生駒市コミュニティセンター 会議室 206
 - 3 出席者 (委員) 浦西会長 小林委員 樋口委員 吉田委員
西川委員 山田委員 臼井委員 神委員
(事務局) 長田生涯学習部長 西野生涯学習課長
錦文化振興係長 浅井生涯学習課職員 伊田生涯学習課職員

欠席者 山本副会長 吉川委員
 - 4 会議の公開・非公開 公開 傍聴人数3人 西村康弘 野口民治 今木義法
 - 5 議題
会長あいさつ
(1) 第6回会議録の承認について
(2) まとめについて
(3) その他
 - 6 審議内容
・第6回会議録の承認について
訂正箇所 5箇所
訂正のうえ全員承認
- 事務局 他市の事例報告追加部分説明
- ・学芸員の設置について
Y市立歴史民俗資料館：常勤4名
K市立草野歴史資料館：常勤1名
S市資料館：非常勤で4日来られる方が1名、2日来られる方が1名
S歴史文化まちづくりセンターとY市歴史民俗資料館は連携でカバーされているので元々の設置はなし。
 - ・施設のサポーターについて
設置しているところ：Y市、K市
Y市立歴史民俗資料館：120名の方が友の会で活動をしており、ボランティアも登録数が22名で解説や資料の整理等に参画されている。
K市立歴史資料館：既存の団体が資料館の開設前からサポーターとして資料館との共同事業などの事業に参画されている。
 - ・H市資料館
収入が200万円を越える大きな数値であった理由は自主事業での関係の事業、あるいはコンサートなどの収益が多かった結果となっている。
 - ・S市立民俗資料館
施設管理費が8700万円と非常に多かった理由は、S市の施設の敷地内が公園であるということで21年度はその公園の隣接地を公園用地として買い上げ、その工事

費などが含まれているため 8700 万という大きな数字になった。通常は庭園管理を含め 1500 万程度の指定管理費を見ている。

・ 市民の声について

Y市立歴史民俗資料館：利用者の満足評価をとっており、いずれも高い評価を得ている。

H市資料館：いろいろなイベントがあり、以前よりも足を運ぶ回数が増えたのだという意見がある。

K市立歴史資料館：サービス低下につながるのではないかという不安。

- 会長 今の報告に対して質問はありますか。
- 神委員 K市のサポーターは何人ぐらいの方が活動されているのか。
- 事務局 次回までに調べてきます。
- 吉田委員 H市の資料館の入場者数が指定管理制導入後に減っているのはなぜか。入場者数が増えるなら成果が上がっていることがわかるが、減っているということは評判が悪いのではないか。
- 神委員 市民の声が「何度も足を運ぶようになった」というのもおかしい。
- 事務局 H市資料館の担当者によると、オープン当初に非常に多くの人を訪れ、オープンするときよりは減りつつありますが、いろいろ事業をしているのでなんとか1万人以上は来ていただけるようになったとのことでした。
- 吉田委員 入場者数とはどのくらい入ったらよいのか。年間 12000 人ということは、月に 1000 人、10 日で 300 人、1 日 30 人となるが、1 日に 30 人も入るのか。なかなか入らないと思うが。
- 浦西会長 入場者数というのは一番数字として現れやすいものなのでいつも増減に関する議論がされるが、それは1年、2年、のスタンスではなく長い目で見ていかないといけない。博物館を多くの人利用して、充実感を持って帰ってもらう、その数が多ければ多いほどいい。入場者数が 100 人であってもそれが多いのか少ないのかという評価はここでは控える。
- 吉田委員 まとめの中には「入場者が多ければ良いというものではない」とある。
- 西野課長 生駒消防署の横にあった資料館の入場者数は、だいたい少ないときで 5～6 名、多いときで 30 名だったと思います。生駒小学校がすぐ傍にあるので、学校の児童が訪れるときは入場者数が上がり、また土日の開館している場合に普段よりも多い約 20 名程度だと記憶しています。そのときは自主事業などを開講していなかったので入館料無料というかたちであったと思います。
- 神委員 今回は生駒市が指定管理をすすめているが、このときの条件に活動人数などの指標は出さないのか。
- 西野課長 提案に基づくというかたちを前提にしてはどうかと考えています。施設の維持管理の経費については、決算額を提示して維持費を含めたご提案をいただき、そのとき

に集客人数などを目処とするような提案を逆にこちらがいただき、どこが1番適任の管理者であるか決めるというかたちにしようかと考えています。

神委員 それは「1万人入れます」という形で手を上げて、そこに決まったものの実際の入場者数が4000人で、それが5年間続くと管理者の評価も下がる。

西野課長 他の同規模施設の集客状況なども参考資料としてプロポーザル方式の提案をいただきたいと考えています。

長田部長 去年の4月から体育施設で指定管理という方法をとっているが、そのときに利用者数の目標をプロポーザルで出してこられたところはありませんでした。どんなサービスをするか、今まで以上にどんなことをしていくかという提案はありましたが、利用者数をどうするかというのは難しいところでありますので、また文化施設のほうも来年度に指定管理をやっというと思っていますが、北コミでは現在年間12万人ほど、南コミでも10万人近く使っていただいております、それ以上伸ばしていくのは不可能に近いような施設もあります。それよりもサービスをどのように提供していくか、という提案で評価していくことになるかと考えており、単純に数値だけで見られない部分があるので、このような形が増えていきます。

西川委員 資料館についてこれ以前の問題でここに資料館があることを知らない人が多い。山崎町に前の資料館があったときに存在を知らない人が多かった。よその郷土資料館に行ったときに200メートル圏内まで行ってもわからず、地元の人に聞いてもわからなかった。やはり開館するときに、ただ広報で知らせるだけでなく、まずは知ってもらおうということが一番であると思う。

浦西会長 全国の博物館一覧表には生駒市郷土資料館というのは出ているが地元の人が知らないという状態だったので、今度できる博物館はそんなことのないようにしてほしい。生駒市民がよく知っている施設であるべきである。

追加報告の件はこれでよろしいか。指定管理者制の導入とは、全国の市や県など行政都市の流れである。行政だけでやっているとどうしても活性化しないということがあるが、民間の力も導入し、もう少し自由な裁量を組織団体に任せ、アイデアを出してもらい市民のためにもっと参加できるような施設をつくるのが大事だと思う。それを成功させるためには、管理者指定を受けた団体の頑張りが必要となる。限られた予算で右上がりに活動しなければならぬという負担がかかってくると思う。5年越しに評価されることもあるだろうし、これが10年、20年、続くのかという問題も浮かび上がってくると思うが、うまく成功すれば本来持っている博物館の力がさまざまな形で繰り返されてくることもあるのも確かである。そのためには指定管理者制を受けた団体は最初の5年間は本当に頑張らなくてはならない。そこで受けてくれる団体があればいいが、もし提案をしてくれるのも、はいと手を上げてくれるのも無いという形になると、資料館オープンは難しくなると思う。

長田部長 そうなると直営という形になります。指定管理ではなくて部分委託になります。職員の配属は最小限に留めて、部分部分を委託していくという形になります。

吉田委員 これまでの議論の中で指定管理に対して、低反応な意見のほうが多かった。行政あるいは市側が、悪く言えば「傍観的に見ている」という意見もあった。たとえば直営でなくても、指定管理になる前に運営委員会を市の中に設置する。メンバーは外部に頼み、市も加わりそこへ運営・企画・執行まで全部任せる。それを指定管理者に任せてしまうのではなく、あくまでも途中にある運営委員会がやる。しかし直接

市は配置しないで運営委員会が執行していくということから始めないのか。

長田部長　　そういうことも考えられますが、運営委員会等を立ち上げて運営するにしても、主になるのは市の職員になってきます。どの運営委員会になっても、事務を市の職員が全てやり、意見だけを頂くというような運営委員会になっているところがほとんどです。そうなると人件費は直営と同じだけかかってしまいます。やはりなるべく経費は落としたい、そしてより効率的に運営をしていこうと思うと、指定管理という制度に向いてしまうのが現状です。

吉田委員　　意見を述べるだけの委員会ではこれも意味がない。

長田部長　　理想としては考えられるが、現実的にやっていくとなると難しいです。

浦西会長　　資料の問題も議論しなければならないが、生駒市全体でどういう保管をする、それ以外も含め展示構想を考えることもでき、入館者も見込まれるという建物を文化施設として、教育施設として、観光施設として様々な活用ができる可能性のあるものがオープンしようとしている。一番問題なのは運営面で、博物館運営に関して、健全な財政で健全な活動ができるということであるが、なかなか難しい。

神委員　　われわれは指定管理の専門家ではないが、指定管理もだいぶ国が評価してホームページ等で発表している。石川県でも指定管理はどうだったかというレポートを発表している。そこからいろいろ学ぶことができる。今回指定管理者を公募するときの資料として作るときに参考にしてほしい。たとえば「3年間必死になってもうまくいかないのだから5年間は最低ほしい。」という要望が多かったです。そういうのに基づいた資料作り、フレーム作りをしてほしい。

長田部長　　生駒はたいてい5年、長いのが病院の30年で状況によって期間は変わってきます。ただ一般的な管理はまず5年から始まり、状況を見て、2期目で非常に素晴らしいという評価になれば10年になる可能性はあります。

山田委員　　私は指定管理者という言葉聞いてもよくわからないが、市で採算が合わず無理だといっていることを、指定管理でどうやってこのままやっていくのかが不思議で仕方がない。プロポーザルにしよ、何にしよ無責任だと言いたい。民間ではいろいろなところにお世話になっているわけなので、絶対それなりにしないといけない。それを「到底無理だ」と言っている事をきっちりやってくれというのはそんな虫のいい話があるのかと思う。手抜きとか、それなりの中でやっていかないと、採算があわない中できっちりやれというのは、ものにもよりますが、かなり不安がある。私自身も指定管理者より、市に絡んでいただきたい。ただ採算があわないというならそれなりのことをやらないと民間から見ると納得がいかない。

長田部長　　市の施設は民間の施設と違って採算という言葉はほとんどありません。採算をとれるようなものではなくて、たとえば管理に経費を10使っていたものを7や8に抑えたいということで指定管理者制をとるという形です。

山田委員　　だからそれを市の中でできないのか。そんな無責任でいいのか。

長田部長　　ただ、市の職員というのは一度雇うと簡単にクビにはできないし、給料は上がっていきます。今は評価制度で、評価が悪ければある程度上がる率は少ないが、それでも上がっていく。しかしながら民間では新しい方を雇っていくことも可能です。市で臨時職員を雇うこともできるが、それは批判のもとになっています。

- 山田委員 いろいろな趣向もあると思うが、考え方を変えていかないと最初からお預かりするのに非常に無責任だと感じる。行政のいろいろな工夫や時間内の効率の悪さは僕らも横にいても非常に感じる。もうちょっといろんな部分で考えていただきたい。今は厳しい時代であるが、考えていかないといけない中でわりとあっさり言われているので私はあきれている。
- 長田部長 やはり金額を下げるとともに、サービス水準はそのままにしたい。というのも管理専門の市の職員というのはいません。しかしそれなりの専門の民間の方であったら、サービス水準を維持できます。
- 山田委員 そうやってくれるところがあればいいが、普通に考えたら人がやることなので同じことだと思う。同じような人がやるわけであり、それで管理の仕方とか言うのであればそこはもっと考えていかないと。
- 長田部長 管理の仕方というより自主事業として考える。館の管理だけが指定管理ではありません。中身、事業も含めて指定管理となります。
- 山田委員 それを市ではできないから動かずに民間でやってくれということに無責任さを感じる。
- 浦西会長 わかりやすく言うと、山田委員が言ったような形が行政の形である。これが本当にできるのかというのがいろんな立場で試されている。建物の管理は任せられるかもしれないが、人間に関することは指定管理者制という、果たして行政手放しで任せられるのかという問題がある。行政が手放しで、お金は安くたたき、入場者数を多い少ないと意見を言う、というお代官的な立場に立っていいのかという問いかけは指定管理者制をしているもう一方の声として出ているのは確かである。その辺りは最終判断するときに考えていかないといけない。責任は生駒市が持たないといけない、というのが基本にあるのでそこもしっかり考えていかないと、単なる指定管理者制導入というだけでは、1割は成功するかもしれないが、9割はサービス低下につながる恐れがある。予算を8割に減らし、指定管理を第三者に任せて、囑託職員のような職員がどういった身分保障をされているのかといったことも含め、どれだけ熱を入れて取り組めるかということについても行政的には考えなければならない。
- 長田部長 職員の中でもやはり職員で管理するのがいいと考えている人もいます。職員がどんどん減っていく中で、どうやって施設を運営していくかとなると、やはり職員以外でしないとできないという現実があります。生駒市も職員の数が4年ほどで200人余りが減り、800人ほどになっています。その200人は遊んでいたわけではありません。仕事は減っているわけではなく増えています。市の職員にとっても管理していたら楽な面もあり、いろいろな発想の元でできるといったことも当然あります。しかしながら、今の社会の中で職員の手が足りない中いかに施設を守っていこうと考えたら、やはり民間に頼る方法しかないのが現状であります。
- 山田委員 職員がいらないからできないのは仕方ないが、お金を使って委託するわけですよ。職員でやるにはお金がかかるが、民間ならできるというわけか。たしかに民間の方がいいケースもある。でもそれはものによってであり、そうはいかないこともある。もっともっといろいろな工夫をした方がいいと思う。NPOでやるとか寄付でまかなうというならその通りであるが、指定管理にしてお金払ってやっていますというのも疑問に感じる。

- 西野課長 民間への委託料というのは、予算を確保してやっていく中で、その範囲内でいろんな自主事業なりをやっていただくというのがこちらのねらいであります。ここでまとめている意見の中で、たとえば20ページ下段1番下の行に「行政はそれを指導し続けなければならない。」とあります。団体への行政評価を継続的にも行うとか、指定管理をする中で生駒市の歴史を、文化財を守っていこうという熱い思いを持っている方に受託していただくような形でご意見をまとめていただいているつもりですので、NPOであるとか文化財保護の活動をされている団体であるとか、そういった方に手を挙げていただけると、経費の面でも、熱意の面でも良い指定管理の運営ができるのではないかと考えています。理想かもわからないが、そのように進めていければと考えています。
- 山田委員 民間には核になるコアという部分があり、なにが一番コアになるかを考えていく。たとえば広報とかは民間に任せた方が効率がいい。これはコアに近い部分だと私は思っている。市がお預かりしたものを持つというのは、無料で熱い思いでやってくれればいいが、市自体も熱い思いを持つべきではないか。
- 長田部長 おっしゃる通りですが、市でやるべきことはやはり先ほども言ったように、税のことや市民課のことであり、教育であり、これも教育の一環ではあるが、直接子どもを相手にするような学校とはまた違います。そちらの効率化を図るというのはなかなか難しいことになってきます。
- 浦西会長 これは教育委員会が考えないといけない事になってくると思うが、たとえば指定管理者制のプロポーザルで、いろんな提案があり、判断する・評価をするときに客観的な判断ができるかどうかは、教育委員会自身がこういう博物館にしたいというひとつの考え方をしっかり構築していることが必要となる。やはり教育委員会が文面だけでなく、こういう博物館を思っているのだという考え方をしっかり詰めてほしい。そうでないとプロポーザルの意見を判断するときに、どれを選んだらいいのかという問題になる。やはり市自体がこの部分をやらないといけないという風になるのかを高い見地から考えていかないといけない。その点はやはり生駒市の郷土資料館はこういう形で、という公共の建物という性格を外せない。そして生駒市の文化財を守るという精神の部分も必要である。そういう部分を提案してきた団体を評価に入れていかないと、この資料館という性格のものは建物管理だけではないソフトの部分が非常に大きなウエイトを占めていることを認識しているかが、博物館の成功にかかってくる。我々も意見を述べる立場として、成功してもらいたいし、そういうことを軸にしてほしい。ただプロポーザルで意見をもらって、そしてその業者の提案が非常に素晴らしかったのでそこに任せっきりになっては困る。委員の意見を聞くと、生駒市民に絡んでもらわないといけない。展示するにしても非常に難しい問題が生じるだろう。そして生駒市に絡んでもらいたいということは、やはり補助金とかを取れるようにしておかないと+αの特別枠の事業を指定管理者の団体が受けるルートを作っておかないと、元の予算プラスあと2割はそっちで絞れといってもお金が集まるわけではないので文化庁のお金を受け取るというようなルートを作っておかないと受けるほうも困る。そういう知恵を行政のほうで勉強しておいてほしい。
- 神委員 具体的な審査基準を設け配点まで決めて、そこまで具体的にしておくべきだと思うが、もう一つはやはり基本は地域愛や郷土愛という部分が大きいのと思う。その部分を大きな配点にする、もちろん予算も大事だがその部分をしっかり見て決めていただきたい。

- 長田部長 配点表も配点基準も作らせていただいております。なにが何点かということも公表しています。
- 樋口委員 学校の立場からみると一番気になるのは、今の若い人や子どもたちにとってどういう資料館なのかということ。先ほど繋がるという話があったが、今の子どもたちは文化財や保存に対する意識が非常に薄く、まず興味・関心がない。地元の資料館の役割のひとつとして運営そのものや何人来たかということも大事だが、どの年齢層が来たのかということを含めて、少しでもそういうものに興味・関心を持ってくれるということが大事ではないだろうか。本当にマニアックな世界までいけば生駒でなくても全国に足を運ぶであろうし、専門的な研究でいろいろなところへいけると思う。そういう面でも役割みたいなものをしっかり担わないと生駒市の資料館としての意味がないのではないか。社会科の授業のときにつれてくるというようなものではなく、家族連れで気軽に立ち寄れる施設でないといけない。運営の話が第一に出てきているので、指定管理がいいのか市の直営がいいのかという部分もあるが、どっちにしても若い年齢層にどう対応するのか、今の子どもたちが大きくなったときに今ここでみんなが持っている意識が維持されているかが非常に心配な部分である。指定管理の基準にもそういう部分を入れていただけたらなと感じている。
- 山田委員 私は生駒市の「広報いこま」で広告の仕事を担当している。これは業務期間は3年だが、奈良市は1年である。一生懸命営業活動したら普通もう一度続けてくれるところが多い。でも基本は金額で、(例えば広告掲載の仕事の場合、広告ページの買取価格を)自分が落とした値段より高い値段で入札されるともう終わりである。そして毎年その金額は上がっていく。1年やったらそのお客さんで次も継続してもらえるのに、違う代理店へ持っていく。せっかく顔を覚えたのに3年後の入札で違う業者に決まったら、また変わってしまうことになる。普通だったら同じような値段だと同じ業者で続ける。
- 長田部長 指定管理では非常に良い管理経営をしていただければ、たとえ安いところが出てきてもそのままやっただけという形になってきます。
- 山田委員 わからないわけではないが、そうなかなか合わないケースもある。プロポーザルというのは金額が安くても5年間いい経営をしていただいていたら継続するのか。
- 神委員 指定管理を評価するのは市の職員や行政関係の職員なのか。
- 長田部長 外部の方と市の職員を合わせて書類審査、プレゼンテーションをしていただいて評価するという形になります。
- 神委員 要は費用だけでなく、マインドの部分もきっちり見られる方も必要だ。
- 長田部長 費用だけでなく5年間継続して経営していただかなければならないということで、3年でつぶれるということでは困ります。
- 神委員 お金じゃないというが、半額ぐらいでいいと言われたらきっとそっちがいいということになるだろう。
- 長田部長 今までで金額が高くても落ちたところもあります。
- 浦西会長 教育の要素である文化財保存の要素が資料館にはある。たまたま雇われた非常勤の

人物が非常に能力の高い人で、しかも幅広い見方をできる人物であった場合、非常に活性化するというようなことが外部に見られるかもしれない。それは学芸員でなくてもいいが、教育能力のあるものを生駒の歴史も含めて子どもたちに語り、いかに関心を持たせる力があるかないか、人物によって運営とかだけではおさまらない要素が+αあって、その部分が計画性のない偶然性で成功する場合は唯一指定管理者の成功の例であると思う。管理だけというふうにすると指定管理者制の導入というのはやさしいかもしれないが、そこへ+αの展示、教育活動、体験学習のようなものを企画・運営できる学芸員が安くて成功する場合もあるし、高くて失敗する場合もあり、人物に、あるいは日によって非常に左右される要素がある。先生からもご意見があったように、「子どもが生駒の郷土資料館にあるものに接して影響を受ける」、そういう場をどう作っていくかが課題となってくる。今は博物館自身も多様化していて、大切な資料を保管・展示というかたちと、生駒市でも提案されている野外の資料との連携や、学校博物館という学芸員の貸し出しや、子ども学芸員といった子どもがいろんなものを通じて学ぶものもある。様々な博物館の形態が模索されているので、そういう意味では生駒市もこだわらないといけな。プロポーザルをするときには教育現場のことも意識しながら、業者を選んでいただきたい。

西野課長 今おっしゃっていただいた15ページから子ども、市民参加のところでご意見いただきました部分を次回までにまとめさせていただきます、それを再度クリーンにさせていただくという形でお願いします。

浦西会長 できれば今までの会議録、まとめをコピーして各委員の先生に送っていただきたいです。そして次回問題点だけ整理し、大きな問題点である運営の面について、お気づきの問題点を含めて、次回は生駒の資料館にこんなことがあってほしいというような思いや考えを言ってもらってまとめに入りたいと思います。

西野課長 本日の資料の追加修正した分と今までの議事録をまとめて送らせていただきます。今のところでなにか修正などありましたらお願いします。

・懇話会中間まとめ修正
修正箇所 17箇所

浦西会長 我々は懇話会に出席して意見を述べる立場にいるが、もうひとつ次回までに考えていただきたいのは、生駒市郷土資料館という建物あるいは活動で、あればいいと思うことや夢についてである。公民館でもない、図書館でも学校でもない、しかし大切なものがそこに置かれて、それが生駒市民にどう影響を与えるのか、そんな公共施設がオープンするにはどんなことがあればいいか、夢のようなものも含めアイデアがあれば考えてほしいと思う。オープンすればこんなことがあればいいと思うものを提言の中に入れてほしいのではないかと感じている。

吉田委員 まだ郷土資料館の正式な名前はわからないが、愛称を一般市民から募集するのがいいと思う。趣旨をある程度知らせ、愛称を募集する。それによってまずみんなの注意を向ける。その中からよりいいものを選ぶことを提案する。

神委員 やりすぎかもしれませんがイメージキャラクターなどもどうか。

浦西会長 それも大切なアイデアのひとつだと思います。

浦西会長

地域機能や文化施設や教育施設というのは、いろんなカラーがあり、日本人が自主的に勉強し、満喫し、そういう施設の整理というのをやってきている、最後の時期に博物館という施設で発達しているもの。自分で絵や音楽から学び取る、感じ取る、そういう施設が博物館というものである。奈良県は非常に博物館の整理が遅く、データを見る限りではちゃんとした博物館というのは少なく、20、30出ているにもかかわらず整理が遅れている。市町村レベルだと、設置するということになって、やっところまできたのか、という段階で文化施設はお金がかかるとか効率が悪いとか、そういう逆風が果たしていいのかという問いかけをもう一度生駒市がやっていく必要がある。今人口12万人という大都市なら、こういうのがあるのだと誇りに思えるものを用意してあげないといけない時期にきている。そのためには10年先、20年先の郷土資料館がこんなことであってほしいというような要素が必要である。大阪や京都にいかないとゆっくり見られない、というのではなくやはり生駒のものは生駒である程度知ることができるというのが大事であると思う。

西川委員

建物の話に移るが、改装される前の写真や庁舎の中で仕事している姿の写真を展示してはどうか。

・その他

あと2回でご指摘の点や会議録を新たに修正や意見をいただき、最終回にまとめを完成し、その後教育長に提出することです承。

次回（8回会議）は、6月1日（水）午後3時から

以上